

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	2090100112		
法人名	有限会社ユーネットワーク		
事業所名	グループホームあさかわ		
所在地	長野県長野市浅川東条300-2 (電話) 026-252-5660		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年10月30日	評価確定日	平成20年11月25日

【情報提供票より】 (平成20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13人, 非常勤 5人, 常勤換算	14.15人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年10月20日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	3	要介護 2	3
要介護 3	6	要介護 4	6
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 86.5 歳	最低 80 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・磯村クリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長野市郊外の里山と閑静な住宅地に囲まれた陽だまりのような場所に開設一年目の当ホームがある。隣には小学校があり子供たちの声が聞こえる。その奥に福祉施設、少し離れると大型店が並ぶ大通り、そして飯綱高原に続くループ橋への入口がある。四季折々を居ながらにして満喫できる。特に玄関前からの眺めは入居者の一番のお気に入りである。医師の協力を得ながら入居者の最期を家族と共に看取り、『本人本位』『入居者中心』の個別ケアの実践、地域との交流など沢山のことに取り組み試行錯誤しつつも成果を挙げてきた。職員は切磋琢磨し知識や技術の習得に励んでいる。今後は更に地域に親まれ、地域の役に立つホームに成長したいと意欲も新たに組み立てられているバイタリティ溢れるホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	今回がはじめての評価である。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	評価の意義や目的について全職員で学んでから手分けをして自己評価を行った。評価を行うことでサービスの向上に役立たせるとともに各職員の自己啓発を促す良い機会ともなった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	二ヶ月毎に開催している。メンバーは地域包括センター職員、地区区長、民生委員(2名)、入居者、家族代表そして次回より市介護保険課職員が加わる。入居者の暮らしぶりや活動内容を報告し参加者と意見交換をしている。出された意見や要望は後日職員らと話し合いを持ちサービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族会を今後立ち上げたいと考えている。家族代表が運営推進会議に交代で参加しており要望や意見を出してもらっている。出された意見・要望は職員等で話し合い、改善に取り組んでいる。どんなに些細なことであっても意見や要望があれば改善し、より良い方向に導こうという前向きな姿勢が窺えた。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	授業の一環として小学生がホームを訪問し入居者と交流をしている。運動会や音楽会には入居者一人ひとりに招待状を手渡し学校へ招待している。高校生らのキャンドルサービスのプレゼント、住民によるボランティアの訪問もあり地域の人々との交流の機会は増えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を研修会で学び理解に努めた。事業の目的を意識し「本人本位、入居者中心」の支援を実践している。全てにおいて試行錯誤の一年であったが学んだことも多く理念について話し合いを重ねている。	○	ホームが取り組んできたことを振り返り、更に明確な理念を策定されることを望みます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業の目的と運営方針を職員採用時や研修会等では必ず伝えている。月二回のミーティングやカンファレンスで提供したサービスの振り返りや事業の目的の確認をしている。運営者からの助言もありケアの統一が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生がホームに来訪しゲームや歌を披露し、運動会や音楽会の招待状を入居者に直接手渡し学校へ招待している。高校生がクリスマスにキャンドルサービスのプレゼントをしたり、住民による朗読、マジックや歌の訪問等があり地域の人々との交流を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての評価である。評価の意義や目的について全職員で学んでから手分けをして自己評価を行った。評価を行うことで職員は考えさせられ、自己反省し、日々のケアの振り返りや見直しを行った。		

グループホームあさかわ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎に開催している。入居者の暮らしぶりや活動内容を報告し参加者と意見交換している。出された意見や要望は後日職員と話し合い、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	別の用事で電話をした時であっても、市介護保険課の方からホームの様子や運営推進会議のことを気かけ声をかけてもらっている。行政と一緒に歩んでいる様子が窺えた。介護あんしん相談員の訪問は毎月ある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	急ぎの用件や特別のことがあれば電話で連絡している。健康状態や生活のことなどは家族が面会などにみえた時に報告したり相談している。また、介護計画の説明、出納帳も見てもらい確認印を頂いている。	○	ホームの様子や行事などを家族等に知らせる方法としてホーム便りの発行について検討されてることを望みます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を今後立ち上げたいと考えている。運営推進会議に交代で家族代表が参加しており要望や意見を出してもらっている。出された意見、要望は職員等で話し合い改善に取り組んでいる。些細なことであっても運営に反映させようと努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による支援を重視し実践している。ユニット間の職員の異動は基本的にはない。やむを得ない離職などで職員が代わる場合には入居者にきちんと説明し紹介している。		

グループホームあさかわ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した後は職員に報告し共有している。報告書には研修の目的、内容、感想の欄がある。感想には「自分を磨きたい」、「自身の向上」などのコメントが多く、お互いに切磋琢磨して知識や技能の習得に励んでいる様子が伝わって来た。月二回の勉強会は管理者が講師を務め、職員の資質向上への取り組みが積極的に行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野圏域グループホームネットワークに加入し、勉強会、意見交換に参加している。相互訪問に関しては職員のレベルアップやサービスの質向上のために早い時期での実現を望んでいる。管理者は近隣の同業者とも連絡を取り合い情報交換や相談をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員二人が自宅を訪問し本人に逢い、家族の話を聞くことから始めている。その後本人、家族にホームを訪問してもらい、入居者や職員と一緒に過ごし雰囲気を感じてもらっている。本人が納得した上でサービスを開始できるように家族と相談しながら話しを進めている。入居後一週間は本人の気持ちを察しながら家族とも連絡を取り合い個別対応で支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は幅広く沢山のことを知っていて聞けば何でも教えてくれる。職員は入居者の気遣い、思いやりや優しさに出会う都度、驚き、感心し、感謝している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が可能な入居者には声をかけて確認している。自分でしたいことをしている入居者もいるが、会話や本人の何気ないつぶやき、行動などから知ることもある。意思表示が困難な場合には家族からの情報、生活歴などを参考に全職員で話し合い、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービスの開始に際して入居者の心身状況や希望などを基に職員が意見を出し合い個別の介護計画を作成している。必要に応じ医師からも意見をもらっている。作成した介護計画は必ず入居者家族に説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日、介護計画の実施状況と効果を支援経過記録表に記入している。状況の変化や意向が変更されたときには介護計画を見直し現状に即した介護計画に作成し直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や通院は家族にお願いしているが、都合がつかない時は家族に代わり付き添っている。地域のニーズに役立ちたいと、2年後のショートステイ事業開設に向けて必要な研修を受けるなど準備をしている。		

グループホームあさかわ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居者家族の希望に沿っている。内科医に関しては協力医院なので入居時に説明をした上で同意が得られれば移行している。入居者の心身状態の異変やその他、緊急事態が生じた場合には主治医や協力医院と連携をとり適切な支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合における指針がある。この指針を基に終末期を迎えた入居者が最期を家族と共に迎えられよう支援した実績もある。入居者とともに看取りを経験したことで、入居者が「私はここでいいわ」、「私は家が良い」など日常会話の中で一人ひとりとの気持ちを知ることが出来た。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は業務上知り得た入居者、家族等の個人情報の漏洩防止に徹し、入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応に努めている。声かけや対応等が好ましくないときは運営者や管理者が気づいた時点で注意するなどプライバシー保護の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムやペースを大切にしている。散歩に出掛けたり、自宅に帰る、ピアノを弾く、書道・編み物をする等、その日の意向や希望に添って支援している。		

グループホームあさかわ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしゃべりしながら包丁で野菜を切ったり皮むきなど職員と一緒に食事の準備をしている。おやつ飲み物は何種類か用意し、入居者が好きな物を楽しみながら選ぶ場面作りをしている。昼食作り専門の職員（調理人ではないが料理が上手な）が勤務しており、2ユニットを交互に2、3日ずつ担当している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められているが入居者の希望に応じる体制ができていますので毎日でも可能である。一人ずつ交代で入浴している。職員はプライバシーに配慮しながら安全にゆっくりと入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔の経験を活かしオヤキ作りや季節の野菜の漬物作りに挑戦している。若い頃の習い事や興味のあることをしながら過ごしている。小学生が訪問したときに手作りのナプキンをプレゼントし喜ばれた。職員と一緒に布団を干したり、洗濯物をたたんだり食器を拭いたりする場面作りをし支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近隣の散歩や買物に出掛ける以外に季節に応じ花見や紅葉狩り、七夕見学、イチゴ狩りまた温泉や外食にと近隣市町村へ足を伸ばし日帰り旅行を楽しんでいる。歩行困難であっても車椅子で出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害を全職員は十分に認識している。毎日自宅や近所へと出掛ける入居者に担当の職員が1時間、2時間何度となくついて廻っている。担当職員がいない間は全職員のチームプレイで他の入居者への個別ケアに支障がないように日々取り組んでいる。		

グループホームあさかわ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年二回行っている。同時に消火器の扱い方、通報や緊急連絡の訓練も行い、避難訓練は入居者も参加している。運営推進会議の席で地域住民の協力や消防署・地域消防団の協力依頼について相談している。地域で行っている防災訓練へ入居者と共に参加することも検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量を毎回確認し記録に残している。季節の野菜や果物を使い家庭的な料理が提供されている。入居者の嚥下や咀嚼状況などに応じたメニューも必要があれば提供している。	○	時には献立を栄養士に点検してもらい専門的なアドバイスを受けていただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の外には椅子が置かれホーム内にも所々に椅子やソファがある。天窓からの秋の陽射しが室内を柔らかく照らしていた。入居者は思い思いの場所、好きな場所でおしゃべりしたり、歌を歌いながら過ごしている。玄関ホールは明るく、入居者が時々外に出たり、外の様子を見に足を運んでいた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとりが居心地良く過ごせるように、タンスや鏡台、テーブルなどの馴染みの家具や家族写真が持ち込まれている。居室からは紅葉した里山や田んぼ、住宅が見える。綺麗なお部屋ですねと話しかけると『私の所はいい処ですよ』と笑顔で答えてくれた。		

※  は、重点項目。